

小学生

11月の作文課題

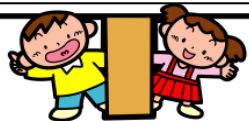
課題①～④から自由に選んで作文を書きましょう。(400字以内)

★今月のねらい★

- ◆季節感を表現する
- ◆物語を創作する

作文のしめきり日は、**11月**日です!

しめきりをすぎても添削はできますから、決してあきらめずに提出してくださいね。



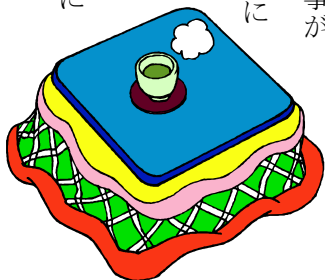
日本作文指導センター発行 (2012)

① 「こたつ」

「こたつってなに?」と、思う人が、いるかもしれない。エアコンやストーブ、床暖房ゆかたんぽうが、寒さをふせいでくれる時代です。でも「おきこたつ」にすっぽり入って、ふとんを首まで引きよせると、一生出たくないくらいあったかいのです。みよようになまけたくなるのも、こたつの困こまった点てんです。江戸時代は火事が

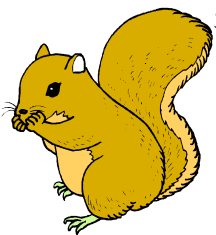
多かったので、「十一月の亥いの日

こたつ開きをすれば、その冬は火事にならずにすむ。」というならわしがありました。こたつについて、作文を書きましょう。



② 「しっぽ」

リスやキツネ、カンガルーの動きうごを見てみましょう。とんだりはねたりするときに、しっぽを上手につかってバランスをとっています。サルは、えだにぶら下がったり、木の実をとったりするのに、しっぽをつかいます。牛、馬、ライオンのしっぽは、虫をおいはらうためにやくに立ちます。では、犬やぶたはどうでしょう。人間に飼かわれていると、しっぽはいらないのでしょいか。人間にしっぽがないことも、あわせて考えてみてください。



③ 「五本のゆび」

ずっと前に「五本のゆび」という物語ものがたりを読みました。一番もしつかり者は、おやゆびのトッキー兄さんです。あとの四人の弟は、はなれることができせん。みなさんのゆびをひらいてみてください。それぞれやく目がちがうのに、気がついたでしょうか。四本のゆびに名前をつけて、どんなやく目をはたしているかを考えて、物語を作ってみましょう。



④ 中学受験用

次の文章を読み、あなたの考えを四〇〇字以内で書きなさい。題は、自分でつけること。

ものすごく馬鹿げたことのようなことが私の存在を支えているように思います。例えば、家に帰ったら「おかえり」と言うてくれる人がいるとかね。それから、家で寝ころんでても出ていけと簡単に言われなとか(笑)。皆さん笑われますけどねえ、家に帰ってごろんと寝ころんだら、ちゃんと座りなさいとか父親として行儀良くふるまえなんていう人がおいたら、たまらんとおもいますねえ。要するに、僕という人間が割合に勝手なことをしても、僕の勝手な存在というものを入れこんでる空間といひますか場所といひますか、そういうものがある。もつと言いますと、電車の駅おりて家まで帰ってくる間の景色がいつも同じ景色やいひのが大事なことでないでしょうか。帰ってくる時に、家が三軒ほどぼうつとなくなつたり(笑)、家に帰つてみたら二階のはずやつたのに、急に五階になつたり(笑)。で、そんなことになつたらものすごく不安になるとおもひんです。

あまり気がついておられないかも知れませんが、松の木が一本はえてるといひだけでもたいしたことでは、ね、いつも通る道に同じ松の木があるなんていひことは、実はすごいことなんです。やっぱ僕といひ存在を支えてくれる。

(河合隼雄『対話する人間』より)